



記念すべきボラ連の発足式。講演会ではボランティアの現状と課題に共感、特に全加盟団体による活動紹介は互いの理解と交流を深める貴重な機会となりました。



ボランティアが集えば、心つなく輪も広がる。
 目標は誰もが「安心」して暮らせるまち。
 ボラ連は、その「安心」をそっと支えてくれます。



福智町ボラ連加盟グループ	代表者名、会員数、発足年および活動内容
理容美容	代表：池本 正義（伊方） 会員：1人 昭和58年発足 内容：特別養護老人ホームでの理髪活動
田川署赤池交番連絡協議会	代表：岩城 辰美（赤池） 会員：14人 昭和30年発足 内容：青少年補導や交通パトロール、地域の防犯活動
クローバーの会	代表：白金 春生（伊方） 会員：2人 平成19年発足 内容：障がい児者、高齢者などへの各種支援活動
ひこさんがわ夢の会	代表：大久保琢磨（赤池） 会員：76人 平成9年発足 内容：彦山川の河川清掃など（年会費1,000円で運営）
青い鳥	代表：桑野 京子（市場） 会員：13人 平成9年発足 内容：視覚障がい者への広報ふくち音訳配布、勉強会
方城手話の会	代表：葛原 高（弁城） 会員：12人 平成7年発足 内容：聴覚障がい者との交流、手話の普及活動など
世代	代表：崎山 京（伊方） 会員：3人 平成8年発足 内容：地域活性化活動、町や社会福祉協議会行事の支援
ユートピア37研究会	代表：白石 進（伊方） 会員：19人 平成元年発足 内容：地域活性化活動、町や社会福祉協議会行事の支援
ひまわり	代表：三宅 貞子（伊方） 会員：15人 平成8年発足 内容：花植え、施設の高齢者のマッサージ、行事の支援
金田手話の会	代表：河西 秀美（金田） 会員：19人 昭和56年発足 内容：聴覚障がい者との交流、手話の普及活動など
個人ボランティア	代表：石田富士子（伊方） 会員：1人 内容：各種ボランティア活動全般
個人ボランティア	代表：田中 和敏（神崎） 会員：1人 内容：各種ボランティア活動全般
こころ	代表：森 静子（伊方） 会員：28人 平成15年発足 内容：青少年の健全育成、高齢者や障がい者の支援など
福智つばさの会	代表：金山 松榮（伊方） 会員：4人 昭和62年発足 内容：高齢者福祉の啓発活動の映画上映や講演会など
ぶらんこ	代表：岸谷 元美（赤池） 会員：12人 平成10年発足 内容：絵本の読み聞かせやブックスタート事業の支援
菜の花	代表：岸谷 元美（赤池） 会員：10人 平成9年発足 内容：聴覚障がい者との交流、手話の普及活動など
むぎの会	代表：白石眞衣子（伊方） 会員：10人 平成5年発足 内容：障がい問題を話し誰もが住みよい町づくりの推進
交友会	代表：榊 徳春（伊方） 会員：10人 平成12年発足 内容：行事の支援、町内でのボランティア活動への協力
ほたる	代表：藤木 正伸（伊方） 会員：10人 平成17年発足 内容：依頼があればどんな活動でも
虹の会	代表：奥野サカエ（上野） 会員：12人 平成3年発足 内容：福祉施設での清掃と交流、缶や古紙の回収など



特別養護老人ホームで理髪活動のボランティアをして24年になる池本会長。グループ「ひまわり」の顔マッサージも受け、みなさんの表情は実に晴れやかでした。

20団体272人が加盟しスタート
 福智町内には、ボランティア活動をしている多くの人や団体が存在します。そのボランティアグループが互いに連絡を取り合い協力することで、ボランティア活動をより活性化させ、誰もが安心して暮らせる福智町を目指して設立したのが「福智町ボランティア連絡協議会」です。社会福祉協議会方城事業所を事務局として、平成18年11月に設立準備委員会が発足、平成19年4月に町内全体に呼びかけ、20団体（272人）が加盟しました。



紹介の後、県社協ボランティアセンター運営委員長である古谷信一さんを講師に招き「ボランティア活動の現状とこれからの福智町に求められる活動とは」と題した講演が行われました。古谷さんは行橋市で39年間勤めた小学校教諭を退職後、民生児童委員や地域に根ざした寺子屋「家庭塾」を運営するなど、幅広い活動を行っています。「退職後に、何をしたいのか分からないうという人がボランティア活動を行うケースが多いようです。ボランティアは今までの経歴も年齢も関係ありません。自分の得意なこと、興味のあることをやればいいだけ。ボランティアを始めることに何も億劫になる必要はないのです」と会場に語りかけ、自身の体験を踏まえながらボランティア活動のポイントやメリットをユーモアを交えて講演しました。

ニーズ高まるボランティアへの期待

いま国民の3人に1人がボランティア活動に参加したいと思っていることが、内閣府の調査で分かっています。現在は10年前に比べ、約3倍の1300万人が活動しています。しかしこれは国民の10人に1人の数にあたることから、ボランティア活動に参加したいけれど、実際にはできていないという人が多いことが分かります。福智町のまちづくりも、体育協会、文化連盟、子ども育成連絡協議会、青少年育成町民会議のスタッフなど、無償で活動してくださる多くのおみなさんに支えられています。住民ニーズが多様化し、行政サービスでは対応できない課題となっている現在、地域に密着したボランティアが今後ますます必要になっています。



福智町ボランティア連絡協議会は、2か月に1回の定例会を行い、互いの情報交換をしながら今後の活動や取り組みについて話し合っていく方針です。

会長
池本 正義さん



町民のみなさんにボラ連のことを知っていただき、より多くの人にボランティアに対する関心を持って欲しいと願っています。ひとりでは行動を起こせない人も、わたしたちの活動をPRすることで興味を持ち、共に活動していただくと幸せです。今後も地域ボランティアの輪がますます広がっていくよう努めてまいります。（理容美容・伊方）

副会長
大久保 琢磨さん



ボランティア団体が福智町としてやっぴーになったという思いです。今後、このボラ連がどう発展していくかは我々の力にかかっています。団体ごとの活動だけでなく、相乗効果や一体感が生まれるような協議会全体の取り組みも考えていきたいと思っています。（ひこさんがわ夢の会・赤池）

事務局長
田中 和敏さん



事務局では、町民のみなさんからボランティアの要請があったときの取りまとめなどを行います。みなさんが困ったときの相談窓口になれるようPRし、できることから積極的に取り組んでいきたいと思っています。（個人ボランティア・神崎）